

生活支援体制整備事業において考えられる地域課題について

R6.9 作成 守山市社会福祉協議会

生活支援体制整備事業は、介護保険法による「介護予防・日常生活支援総合事業」として、市町村が中心となって、地域の実情に応じて、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することで、地域の支え合い体制づくりを推進し、要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援等を可能とすることを目指すものです。

本市においては、平成28年度から、学区社協（事務局は地区会館）にその取り組みの単位となる第2層協議体を設置し、各地域で住民主体による活動を展開されています。

第2層協議体において考えられる地域課題や今後の目標など（R6.9 第2層コーディネーターへの聞き取り等から）

| 学区 | 地域の課題と考えられること | 前年度までの取組状況 | 現在の取組および今後の目標・展望 |
|----|---|---|--|
| 守山 | <ul style="list-style-type: none"> 協議体として位置づけた学区社協総務部会では、長年にわたり具体的な取り組みができなかった 男性の介護者や一人暮らし高齢者が増えていると実感している | <p>【令和4年度以前の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議体の取組の中心を担う組織の設置に向け調整してきた <p>【令和5年度取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学区社協にボランティア部会を設置し、R6.3「日常生活にかかる便利帳」を作成 男性の料理教室を開始するための準備を進めた | <p>【令和6年度取組および目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア部会ではなく総務部会により、R6.7「おとこの料理教室」を開始 <p>【長期的な展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> 料理教室は、切羽詰まった人が参加できるような場にしたい カフェサロンのように、料理教室も、徐々に自治会へ広がってほしい |

| 学区 | 地域の課題と考えられること | 前年度までの取組状況 | 現在の取組および今後の目標・展望 |
|----|--|---|---|
| 吉身 | <ul style="list-style-type: none"> ・ H29 一人暮らし高齢者アンケートの結果をうけて R4.1「ごみ出しボランティア」を開始したが利用が少ない ・ ある自治会では、民生委員のみがボランティアとなり、負担に感じておられる ・ ごみ出しボランティアの次なる事業を展開しなければならないのかと悩んでいる | <p>【令和4年度以前の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R1.7「地域密着型便利帳」発行 <p>【令和5年度取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ出しボランティアの利用を増やすため、自治会長、民生委員、福祉協力員の合同会議や、学区社協広報で周知した ・ 学区社協の事業が多く活動者の負担軽減を図るため、R6～R10の学区地域福祉活動計画により整理や統合を進めることにした | <p>【令和6年度取組および目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ出しボランティアの利用を増やすための取組の検討と実施を継続する ・ 学区社協の総務委員会を定期的に開催し、協議体の取り組みも含めて、各事業の意義等の確認や整理を進める <p>【長期的な展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ出しボランティアなどで、住民が気軽に助け合う地域になってほしい |
| 小津 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2層協議体として位置づけた学区社協総務委員会が定期開催されなくなり、取組が一時停止した ・ 各自治会では、サロンや百歳体操、生活支援ボランティア、新たな居場所など、さまざまな活動を展開されている ・ 学区全体の取り組みについては、多くの人が大きな負担と感じておられるよう | <p>【令和4年度以前の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉協力員の各自治会代表に協議体の構成員になってもらい、会議は年3回程度にとどめることで自治会長等関係者の理解を得て、R4.10に協議体を再開した <p>【令和5年度取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が利用できるボランティア等によるサービスについて学習した ・ 今後の取組内容を検討し、居場所づくりの拡充をめざすことになった | <p>【令和6年度取組および目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の新しい居場所づくりができないか検討する ・ 現在実施されているサロンについて、参加者増・参加者主体・啓発や見守りの充実等に向けた取組内容を検討する <p>【長期的な展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害に対する啓発、お話し相手やお買い物支援などの取組が必要という意見もあるので、随時検討していく |

| 学区 | 地域の課題と考えられること | 前年度までの取組状況 | 現在の取組および今後の目標・展望 |
|----|--|--|---|
| 玉津 | <ul style="list-style-type: none"> ・R2 高齢者への調査では、通院や買い物の送迎への希望が多かった ・今後、買い物に困る人が多く出てくるのではないかと感じている ・異世代や多世代の交流が進んでいない | <p>【令和4年度以前の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区内4自治会中2自治会で生活支援ボランティア活動が開始された <p>【令和5年度取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年にわたる検討や調整を経て、R6.3「地域支援愛送迎活動」を開始した ・買い物問題は、商業店舗への送迎や、配達、移動販売などのサービスがあり、先送りとした（送迎活動の利用可） | <p>【令和6年度取組および目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援愛活動の定着を図る（R6.7：利用12件、登録者17人） <p>【長期的な展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての自治会で生活支援ボランティア活動を実施してもらいたい ・祭りや学区の行事によって培われてきた自治会を越えた住民の結束を維持する中で、ボランティアも増やしていきたい |
| 河西 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議体は、学区社協総務委員会に位置づけられているが、実質的には「重点項目検討委員会」が担っている ・生活支援ボランティア「ささえ愛ネット河西」のメンバーが高齢化してきた | <p>【令和4年度以前の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3.9生活支援ボランティア「ささえ愛ネット河西」発足 <p>【令和5年度取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者のつどいに聴覚障害のある方の参加があった（とても喜ばれた） ・ささえ愛ネット河西の対象者や利用内容を一部拡充（R5の利用19件／毎年増） | <p>【令和6年度取組および目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5～R9の学区地域福祉活動計画により、健康増進や行きたくなる場づくりに取り組む予定 ・「防災」をキーワードに福祉活動を展開していく <p>【長期的な展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉津学区のような送迎活動が必要なかもしれない ・転入者が増えているが、今までと同様、うまく融合・融和していきたい |

| 学区 | 地域の課題と考えられること | 前年度までの取組状況 | 現在の取組および今後の目標・展望 |
|----|--|---|--|
| 速野 | <ul style="list-style-type: none"> ・ H30 から毎週火曜日に開設する「みんなのリビング」は、会場の地区会館までの距離の関係で参加できない人が多い ・ 第2層コーディネーターの立場が難しく、何をやっていいのか分からないと感じられている ・ 関係者はできるだけ仕事(役割)を減らしていきたいと考える中、新しいことをするのは難しい | <p>【令和4年度以前の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R2.3 自治会福祉避難所設置の提唱、R3.3 同ビジュアル版を作成 <p>【令和5年度取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなのリビングの参加者は、長年2～3人であったが、ゲームや麻雀を取り入れてから毎回10～15人となった ・ 第2層コーディネーターが自治会の福祉部会へ参加し始めた | <p>【令和6年度取組および目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援ボランティアの取り組みを各自治会へ広めることを検討する ・ 協議体の会議で毎回行う地域包括支援センターによるケース検討から、何か新たな展開を考えたい <p>【長期的な展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何かあれば自然と助け合う田舎っぽさを残していきたい |
| 中洲 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学区内のさまざまな組織を大きく包含する「中洲学区21活動協議会」に協議体が位置づけられていて、協議体の相談や検討がしづらい状況にある ・ 学区社協の取り組みについては、全面的に民児協が担っている感じがある ・ 地域に空き家が多くなっている | <p>【令和4年度以前の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H29.7～「ラジオ体操大作戦」として年齢を問わずラジオ体操へ参加するよう各自治会へ呼びかけ ・ H30.9～R2.2「男性の料理教室」実施 <p>【令和5年度取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来中洲に戻り住んでもらえるよう、こども園や小学校で地域のいいところを紹介した絵本の読み聞かせや紙芝居を継続 | <p>【令和6年度取組および目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R7からの学区地域福祉活動計画を作成する中で、協議体の位置づけや取組内容を明確にする <p>【長期的な展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民による送迎活動について、その必要性等を改めて確認していく ・ 転入されてきた住民と旧来の住民が出会う場を作れないだろうか |